

Japanese Institute of Landscape Architecture

学会広報

平成十七年七月二十日発行

第17巻・第2号

| | |
|-----------------------|---|
| 平成17年度日本造園学会北海道支部大会案内 | 4 |
| 〳 東北支部大会案内 | 5 |
| 〳 関東支部大会案内 | 6 |
| 〳 中部支部大会案内 | 7 |
| 〳 関西支部大会案内 | 8 |
| 〳 九州支部大会案内 | 9 |

| | |
|--|----|
| 第8回日・韓・中国際ランドスケープ専門家会議及び シンポジウム開催案内 | 1 |
| 「自然と人が無事に生きつづけられる地域環境づくり国際シンポジウム」案内 | 3 |
| 教員公募 | 10 |
| 文献紹介 | 13 |
| 自然・歴史環境基金募集案内 | 20 |

〈編集〉(社)日本造園学会事務局

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館6F

TEL 03-5459-0515、FAX 03-5459-0516

第8回 日・韓・中国際ランドスケープ専門家会議及び シンポジウム開催要項／論文募集／学生フォーラム参加募集

日本造園学会、韓国造景学会、中国風景園林学会は親愛なる協力体制のもとに第8回日韓中造園学国際シンポジウムを2005年10月30日～11月1日に中国上海で開催することになりました。

1：テーマ

テーマ：アーバンランドスケープ、都市緑化と環境を考慮した開発

Urban landscape architecture & greening and environmental development

サブテーマ：

1. 都市近郊緑地のシステムと都市の生態的構造

Urban-suburban green system and urban ecological construction

2. 都市環境における世界博覧会と最適化

World Expo and optimization of urban environment

3. アーバンランドスケープ&都市緑化と市民の生活

Urban landscape architecture & greening and citizens' living

2：論文募集

上記サブテーマに関する誌上参加の公募論文（論文提出のみで口頭発表の義務はありません。）を下記の要領で募集します。

アブストラクト（英語・母国語で、200～300ワード） 7月20日〆切

本論文（英語） 8月10日〆切

3. 学生フォーラムのテーマについて

以下をテーマとして学生フォーラムを開催致します。

－ランドスケープ教育とランドスケープの職業としての発展－

中国と日本と韓国の学生コンペが開催され、会議の中でコンペの参加者と優勝者のプレゼンテーションをします。

4：日 程 10月29日 ウェルカムパーティ（日韓中の専門家と学生）

10月30日・31日 開会式・サブテームスピーチ

日韓中のコンペ結果報告

学生フォーラム

11月1日 見学会（上海）

5：開催地・場所 中国上海 10月31日～11月1日

6：主催 日本造園学会、韓国造景学会、中国風景園林学会

7：論文執筆要領

1. 原稿の形式

1) 原稿のページ数はA4サイズ4ないし6ページとする。原則として、マイクロソフトワード2000（イングリッシュ）を用いて作成する。

2) 1ページ40行、フォントはTimes New Roman、サイズは表題12ポイント、著者の氏名・所属は11ポイント、キーワードは10ポイント（イタリック）、アブストラクト及び本文は10ポイントとする。

尚、表題・著者名・著者所属は、中央揃えとする。

3) レイアウトは、上下マージン30mm、左右マージン30mmとする。

4) 図表等については、割付けて、その位置に貼り付ける。

2. 論文の構成

論文構成は、次の順序とする。①表題，②著者名，③著者所属，④アブストラクト（400～500ワード），⑤キーワード（5ワード），⑥本文，⑦補注・文献等とする。

*「謝辞」は投稿時には記入せず，本原稿（校閲後の最終原稿）に記載する。

3. 補注・文献等の記載形式

補注・文献等は，次の表記方式を参考にする。

Suzuki, T. (1995) A study on historical Japanese gardens, Journal of the Japanese institute of Landscape Architecture 58 (5), 1001-1004.

Suzuki, T. and Y. Tanaka (1996) Contemporary Japanese Architecture, pp.1-40, Zoen-shuppan, Tokyo.

Suzuki, et al. (1994) The future of Japanese Landscape. In Modern Landscapes of Japan (Y. Tanaka, ed.), pp.100-150, Engei-sha, Tokyo.

4. 投稿時の提出物

投稿にあたり提出するものは，論文（図，表，写真を含む）コピー3部とする。なお，事故にそなえて原文をとっておいて下さい。

5. 日本語原稿

論文集への掲載が決定した後，発表者については，論文の日本語訳を提出して頂きます。提出の期日，書式については，校閲後に通知します。

6. 論文手数料

論文手数料として，論文1件につき，10000円を徴収します。これは，校閲から論文集掲載までの手数料となりますので，論文集への掲載が決定しましたら，郵便振替にて送金して下さい。

7. 印刷原稿の提出

論文集への掲載が決定した論文は，印刷原稿として，論文受理通知が届いた後，定める期日までに原文（図表等を貼付けたもの）およびフロッピーディスクに保存したものを提出していただきます。図・写真等の保存は400dpiとする。なお，原稿提出がないときは論文集に掲載しません。

8. その他

文法上のチェックは完了させておくこと

(1) 提出論文は主催者内に設置される校閲委員会において校閲を済ませたもののみを受け付けます。

(2) 提出物

○テキストのファイル，ハードコピー（郵送）

○送り先 日本造園学会事務局

○著者の自宅，勤務先の住所，FAX番号，メールアドレスを明記して下さい。

上記のような内容で行われますので，論文投稿希望者はアブストラクトを学会事務局まで期日までに，メール，FAXにて提出して下さい。尚，連絡等は下記までお願いします。

日本造園学会事務局 松崎順郎宛

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館 6F

TEL : 03-5459-0515 FAX : 03-5459-0516 E-mail:staff@landscapearchitecture.or.jp

生物環境科学研究センター

「自然と人が無事に生きつづけられる地域環境づくり国際シンポジウム」

地球環境、生物環境、地域環境との共生の上に、持続循環型社会構築のための生物・環境分析応用科学、環境創造・再生・デザイン学としての総合化を図ることを目的として設置された生物環境科学研究センターの5周年記念事業として、これまでの研究成果を踏まえ、次の課題となる、地域環境の総合的な理解と統合的なマネジメント、再生をテーマとして開催する国際シンポジウムである。

地域環境の総合性を示す概念として“流域”が再度注目されている。これは、自然、生物、人間社会を重層的にとらえるバイオリジョン、生態地域の概念とも通じるものである。

人間の営為の集約的な場である都市を含む流域、生態地域の有り様をどうしていくか、山岳、農山村、都市、海をつなぐ河川を軸とした、流域、生態地域環境の課題や展望について、西欧、アジア、日本を事例として国際的な比較検討を行うものである。(逐次通訳付)

1. 日 時：平成17年9月30日（金）9時30分～17時
2. 場 所：日本大学生物資源科学部大講堂
3. 対 象：環境科学に係わる教育・研究者、技術者、行政担当者、学生、市民団体、一般市民等
4. 主 催：日本大学生物資源科学部、同生物環境科学研究センター
日本大学大学院生物資源科学研究科・獣医学研究科
5. 後援予定（順不同）：(社)環境情報科学センター、生態工学会、日本沿岸域学会、(社)日本建築学会、(社)日本造園学会、(社)日本都市計画学会、農村計画学会、神奈川県自然環境保全センター、藤沢市、桂川・相模川流域協議会、NPO法人パーマカルチャー・センター・ジャパン、NPO法人緑のダム北相模、国民森林会議

6. プログラム

- 司 会：プロジェクト1メンバー 島田正文（短大生活環境学科教授）
生物環境科学研究センター長 徳山龍明
- 9：30～9：35 開会
- 9：35～9：50 プロジェクトリーダー挨拶 佐々木恵彦
- 9：50～11：50 講演
- 9：50～10：20 1. 流域環境の自然再生＝地域再生／丹沢大山プロジェクト
プロジェクト3サブリーダー 糸長浩司（生物環境工学科教授）
- 10：20～11：50 2. 流域環境保全と市民活動
中瀬 勲（兵庫県立大学教授・兵庫県立人と自然の博物館副館長）
- 10：50～11：50 3. 英国ウェールズの草の根市民による環境教育センターとエコ流域環境づくり
Peter Harper（CAT（代替環境技術教育センター）理事）
- 11：50～12：50 昼食休憩
- 12：50～15：50 講演
- 12：50～13：50 4. ルール工業地域における地域再生、緑地保全・自然復元と持続的社会的構築
E. Geislar（独エッセン市ルール地方協議会緑地・景観計画局景観計画部長）
- 13：50～14：50 5. タイの流域における環境管理 Samran Sombatpanit（前世界水文学会会長）
- 14：50～15：50 6. 中国の「退耕還林」による地域環境の再生 余亮（前東京大学空間情報科学研究センター）
- 15：50～16：00 コーヒーブレイク
- 16：00～16：55 総合討論
- 司 会：プロジェクト1サブリーダー 河野英一（生物環境工学科教授）
プロジェクト3リーダー 勝野武彦（植物資源科学科教授）
パネラー：講演者6名

16：55～17：00 閉会挨拶 プロジェクト1リーダー 水谷 広（一般教養教授）
（問い合わせ先）〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部生物環境科学研究センター
Tel/fax 0466-84-3360

平成17年度 日本造園学会北海道支部大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。ご参加，お待ちしております。

(社)日本造園学会北海道支部

■開催日 平成17年9月16日(金)

■テーマ 都市の緑を考える

■会場 札幌市民会館(札幌市中央区北1条西1丁目)

■日程

受付

9:00~

1. 研究・事例報告会およびポスターセッション

9:30~12:30

2. 北海道学生セッション

9:30~12:30

3. 北海道支部総会

13:00~13:30

4. シンポジウム「台風被害から都市の樹木を考える」

13:30~15:30

5. テーマ報告「道都，札幌都心のストリート景観」

15:40~17:40

6. 懇親会 しみん食堂げんき家(札幌市民会館内)

18:00~20:00

■参加費 資料代500円，事例報告集(資料含む)2,000円(学生1,000円)

懇親会費4,500円(学生2,000円)

事例報告集と懇親会同時申し込みの場合6,000円

■申込方法

- 1) 参加を希望される方は，8月26日(金)までに北海道支部事務局あてにお名前，所属，連絡先を郵便・ファックス・電子メールにてお申し込み下さい。
- 2) 研究・事例報告会で発表を希望される方は，7月29日(金)までに北海道支部事務局あてに発表者名，所属，題名について郵便・ファックス・電子メールにて申し込み，送付される執筆要領に従い原稿を作成し，8月22日(月)までに送付して下さい。原則，ファイルでの入稿とします。
- 3) ポスターによる研究・事例報告も受け付けますので，発表を希望される方は研究・事例報告会同様，7月29日(金)までに北海道支部事務局あてに発表者名，所属，題名について郵便・ファックス・電子メールにて申し込み，送付される執筆要領に従い要旨原稿を作成し，8月22日(月)までに送付して下さい。ポスターは当日，ご持参願います。
- 4) 参加・発表申し込み，各セッションの詳細などはインターネットのホームページでもお知らせします。
<http://www.agr.hokudai.ac.jp/hsla/zoen/index.html>
(変更手続中，変更次第改めてご案内致します)

◇申込・問い合わせ先：

日本造園学会北海道支部事務局

〒097-0197 美瑛市美唄1610-1

専修大学北海道短期大学園芸緑地科内

Tel&Fax: 0126-63-0228

E-mail: okada@senshu-hc.ac.jp

担当：岡田

会場(札幌市民会館)までのアクセス



- ・市営地下鉄「大通」駅より31番出口正面(徒歩5分)
- ・JR札幌駅より徒歩15分

会場案内図

平成17年度 日本造園学会東北支部大会案内 大会テーマ「地方の個性景観と造園技術の背景」

標記の大会を下記の通り開催致します。会員各位多数のご参加をお待ちしております。また、造園学会員以外の方や学生の参加も歓迎いたします。

■開催月日：平成17年10月15日（土）

■開催場所：秋田県立大学秋田キャンパス（秋田市下新城中野字街道端西241-7

TEL. 018-872-1500 JR秋田駅よりタクシーで30分、JR追分駅より徒歩20分）

■日 程：

- | | | |
|------------|-------------|--|
| ・ エクスカーション | 10：00～12：00 | 秋田県立博物館正面入口集合 （JR追分駅から徒歩15分） 秋田県立小泉湧公園、県立博物館見学 |
| ・ 受付 | 12：00～ | |
| ・ 開会 | 13：30 | |
| ・ 総会 | 13：30～14：00 | |
| ・ シンポジウム | 14：15～17：00 | |
| ・ 交流会 | 18：00～20：00 | 花庭巧房みどり |

■大会参加費（資料代を含む）：一般2000円、学生1000円

■交流会場：花庭巧房みどり（秋田市川尻御休町4-27 TEL. 018-888-4455

秋田市中心部県庁近くです。県立大から会場までバスを運行します。）

■交流会参加費：3000円（学生1000円）

■問い合わせ先：

〒010-0951 秋田市山王5-13-3 むつみ造園土木(株)内

日本造園学会東北支部秋田大会実行委員会 榎 清英

TEL. 018-863-2011 FAX 018-864-1317 EメールGSP28826@nifty.com

*大会参加，エクスカーション，交流会，全て事前申し込みは必要ありません。

*パネリストについての詳細など最新情報は，学会ホームページをご覧ください。

平成17年度 日本造園学会東北支部大会案内 大会テーマ「地方の個性景観と造園技術の背景」

標記の大会を下記の通り開催致します。会員各位多数のご参加をお待ちしております。また、造園学会員以外の方や学生の参加も歓迎いたします。

■開催月日：平成17年10月15日（土）

■開催場所：秋田県立大学秋田キャンパス（秋田市下新城中野字街道端西241-7）

TEL. 018-872-1500 JR秋田駅よりタクシーで30分、JR追分駅より徒歩20分）

■日 程：

- ・ エクスカーション 10：00～12：00 秋田県立博物館正面入口集合
（坦追分駅から徒歩15分）
秋田県立小泉潟公園、県立博物館見学

- ・ 受付 12：00～
- ・ 開会 13：30
- ・ 総会 13：30～14：00
- ・ シンポジウム 14：15～17：00
- ・ 交流会 18：00～20：00 花庭巧房みどり

■大会参加費（資料代を含む）：一般2000円、学生1000円

■交流会場：花庭巧房みどり（秋田市川尻御休町4-27 TEL. 018-888-4455
秋田市中心部県庁近くです。県立大から会場までバスを運行します。）

■交流会参加費：3000円（学生1000円）

■問い合わせ先：

〒010-0951 秋田市山王5-13-3 むつみ造園土木株内

日本造園学会東北支部秋田大会実行委員会 榎 清英

TEL. 018-863-2011 FAX 018-864-1317 EメールGSP28826@nifty.com

*大会参加，エクスカーション，交流会，全て事前申し込みは必要ありません。

*パネリストについての詳細など最新情報は，学会ホームページをご覧ください。

平成17年度 日本造園学会中部支部大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位多数のご参加をお待ちしております。中部地区以外の方々もご参加下さい。

■開催月日：平成17年10月29日（土）～30日（日）

■開催場所：29日：現地見学会：東山の森（市民共同の森づくり）及び愛・地球博会場跡地
懇親会：日本造園学会中部支部グリーンステップス
30日：支部総会・講演会・研究発表会：名城大学共通講義棟南

■日程：

<第1日目>10月29日（土）

13：00～17：00 見学会（集合場所未定）

18：00～19：30 懇親会

<第2日目>10月30日（日）

10：00～11：30 研究発表・事例報告会（口頭発表及びポスターセッション）

11：30～12：30 幹事会

12：30～13：00 総会

13：00～14：00 講演会：万博の緑化技術（演者未定）

14：00～16：30 研究発表会

■参加費用：大会参加費：（一般）3,000円、（学生）1,000円

懇親会費：（一般）2,000円、（学生）無料

見学会参加費（バス代）：2,500円（予定）

■参加申し込み：

<見学会、懇親会の申し込み>：

申し込み締め切り：見学会：9月30日（金）懇親会：9月30日（金）

見学会は先着40名で打切らせていただきます。申し込みはeメール又はFAXに下記事項を明記の上、支部事務局まで申し込んで下さい。

①参加者名、②所属、③連絡先電話番号、④eメールアドレス

<研究発表・事例報告の申し込み>：

以下の①～④の項目を明記の上、9月30日（金）までに、下記支部事務局あて、eメール又はFAXで申し込んでください。

①発表者名、所属、電話及びeメールアドレス ②希望する発表形態（口頭・ポスター）

③発表タイトル ④発表内容の要旨（300字以内）

・口頭発表およびポスターセッションの発表時間は、申し込み件数により調整します。

・申し込み状況や発表内容によっては、発表形態の変更をお願いする場合があります。

・口頭発表を申し込まれた方は10月5日（水）必着で、発表要旨原稿A4・2頁（プリントアウトした原稿）の提出をお願いします。なお、同時にCDあるいはFDの提出をお願いします。

＊発表要旨フォームについては後日、お知らせします。

・口頭発表用にPC及び液晶プロジェクター（パワーポイント）を準備します。

・ポスターセッションを申し込まれた方は、10月30日当日会場へ直接パネルをご持参下さい。

■問合せ先：

①会場・懇親会に関する問い合わせ（電話の場合、週日午後1時より5時まで）

社団法人 日本造園学会中部支部事務局

住所 〒466-0854 名古屋市昭和区広路通り7-12 グリーンステップ内 担当：酒井

電話 052-833-7671 FAX 052-833-7671 E-mail: mail: aichik01@mb.infoweb.ne.jp

②見学会に関する問い合わせ

井上忠佳（株）創建 電話 052-682-6969 内線260 FAX 052-682-3849

E-mail:t-inoue@soken.co.jp

③研究発表に関する問い合わせ

丸山 宏 名城大学農学部花卉造園学研究室 電話 052-838-2433 FAX 052-835-7450

E-mail :maruyama@ccmfs.meijo-u.ac.jp

■会場へのアクセス：（詳細は後日）

・グリーンステップス：名古屋市営地下鉄鶴舞線川名駅下車3番出口より徒歩3分

・名城大学：名古屋市営地下鉄鶴舞線塩釜口下車、徒歩10分

平成17年度 日本造園学会関西支部（大阪）大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。また、造園学会員以外の方や学生の参加も歓迎いたします。特に、研究・事例発表セッション、ポスターセッションでは、「研究発表」に加えて「実務報告」や「行政」における取り組みなど、造園分野各方面の方々からの報告をお待ちしております。

■ **開催月日**：平成17年10月8日（土）～10月9日（日）

■ **開催場所**：大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）

大阪市中央区大手前1丁目3番49号（京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅より徒歩約5分）

URL：<http://www.dawncenter.or.jp/shisetsu/map.html>

■ **日 程**：

<第1日目>平成17年10月8日（土）

（開場：12：30～，会場：ドーンセンター1階 パフォーマンススペース）

13：00～16：30 学会井戸端会議：『産・官・学・民』の交流と連携を展望する

～ランドスケープマネジメントのあり方～

第1部：話題提供

みんなのわくわく公園づくり「阿波座南公園」での取り組み

堺自然ふれあいの森での取り組み

大阪府営石川河川公園『自然ゾーン』での取り組み

第2部：総合討論

世話役：増田 昇（大阪府立大学大学院）

17：00～19：00 懇親会（会場：（未定））

<第2日目>平成17年10月9日（日）（受付：9：30～，会場：ドーンセンター5階）

10：00～12：30 研究・事例発表セッション（午前の部）

12：30～13：30 幹事会・総 会

13：30～14：45 研究・事例発表セッション（午後の部）

14：45～15：45 ポスターセッション

15：45～17：00 総合討論会：関西支部（大阪）大会を振り返って

世 話 役：森下元之（日本造園学会関西支部長）

* 研究・事例ポスター展示及び営業展示：11：00～15：45

■ **参加費用**：大会参加費（一般）3,000円，（学生）1,000円

懇親会費（一般）4,000～5,000円，（学生）2,000～2,500円

学会井戸端会議資料代：1,000円／部

■ **参加申し込み**：

詳細についてURL：http://www.landscape.kais.kyoto-u.ac.jp/jila_w/annai.htmlにて公開しておりますので、ご確認ください。

■ **申し込み・問合せ先**

日本造園学会関西支部事務局（担当：今西純一）

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科環境デザイン学研究室内

TEL：075-753-6099，FAX：075-753-6082 E-mail：imanishi@kais.kyoto-u.ac.jp

URL：http://www.landscape.kais.kyoto-u.ac.jp/jila_w/annai.html

平成17年度 日本造園学会九州支部大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位の研究・事例報告の発表ならびに大会へのご参加をお待ちしております。

- **大会テーマ** 「未来に向かう交流の緑と共生のまち」
九州支部大会統一テーマ 「かなたの自然と身近な共生景観」
- **開催月日** 平成17年11月1日（火）・2日（水）
- **開催場所** 福岡県福岡市 （1日：福岡国際会議場，福岡サンパレス
2日：都市緑化ふくおかフェア会場）
- **日 程**
 - <第1日目>11月1日（火）

| | |
|------------------|---------------|
| 1. 日本造園学会九州支部幹事会 | 9：00 ～ 9：30 |
| 一般受付 | 9：15 ～ 9：30 |
| 2. 研究・事例報告会 | 9：30 ～ 12：30 |
| 3. 支部総会 | 13：00 ～ 13：30 |
| 4. 基調講演 | 14：00 ～ 15：20 |
| 5. パネルディスカッション | 15：30 ～ 17：00 |
| 6. 交流会 | 17：30 ～ 19：30 |
 - <第2日目>11月2日（水）
全国都市緑化ふくおかフェア「アイランド花どんたく」見学会
- **参加費**

| | | | |
|------------------------|-----------|-----------|--|
| 大会参加費（事例・研究報告集代含む） | 一般 3,000円 | 学生 1,000円 | |
| 基調講演・パネルディスカッションのみの参加： | 無料 | | |
| 交流会参加費 | 一般 5,000円 | 学生 2,500円 | |
- **事例・研究報告の申込み**

研究・事例報告会で発表を希望される方は9月7日（水）までに、電子メール，または郵送・FAXのいずれかにより下記，支部事務局までお申し込みください。申し込み際には，①発表者名（所属），②発表題目（原稿提出時に変更可），③連絡先（住所，電話，e-mail，FAX）をお知らせください。

申し込み後，送られてくる投稿・執筆要領にしたがって作成し，〔A4判2ページ（4000字程度）〕，10月7日（金）必着で，投稿・執筆要領が指定するあて先に送付してください。掲載料は，1報告につき3,000円です。
- **問合せ・申込み**

日本造園学会九州支部事務局（担当：朝廣和夫）
〒815-8540 福岡県福岡市南区塩原4-9-1
九州大学芸術工学研究院環境計画部門 内
TEL/FAX 092-553-4480 E-mail qzouen@design.kyushu-u.ac.jp

東京農業大学地域環境科学部造園科学科 教員公募

記

1. 所属 東京農業大学地域環境科学部造園科学科
2. 専門分野 景観建設技術分野（造園建設工学研究室）
3. 職名・採用人員 教授または助教授・1名
4. 専門分野の内容

造園科学科では、教育研究の分野を「環境計画・設計分野」、「ランドスケープ資源・植物分野」、「景観建設・技術分野」の三つで構成しています。今回の募集は、この内「景観建設・技術分野」において、造園工学を柱とするランドスケープエンジニアリングの基礎から応用までの幅広い領域で研究及び教育に携わる人材を求めるものです。特に循環型社会（環境共生社会）に対応した新しい知見や実務経験を有した者が望ましく、建築・土木を包括したランドスケープエンジニアリングに対応できる者を希望します。

詳細は本学ホームページ：<http://www.nodai.ac.jp/> を参照して下さい。

5. 職務内容
 - (1) 学部担当科目：造園工学，設計施工基礎，公園施設設計，測量及びGIS，測量実習，卒業論文
 - (2) 大学院担当科目：造園工学特論，造園工学特論演習
6. 採用予定日 平成18年4月1日
7. 応募資格
 - (1) 博士の学位を有する者 できれば実務経験もあり技術者資格（技術士，測量士，施工管理技士，建築士などのいずれか）を有する者
 - (2) 学生の技術教育に熱意のある者（当学科の卒業生には造園施工管理技士，土木施工管理技士，技術士（建設部門）等の技術者資格を得て活躍する人材が多い）
 - (3) 40歳代の者が望ましい
8. 提出書類
 - (1) 履歴書1部
 - (2) 学位業績目録1部
 - a. 学術論文，b. 著書，c. 学位論文，d. 学会口頭発表，e. 調査・報告書，f. その他
 - (3) 研究業績目録に記載した学術論文の別刷 各1部（代表的な学術論文5編以内，コピー可）
 - (4) 従前の研究活動の内容と今後の教育と研究に対する抱負（1,000字～2,000字程度）
9. 応募期限
平成17年9月30日（金）必着 「教員応募」と朱書きし，簡易書留で送付して下さい。
10. 応募書類提出先および問い合わせ先

〒156-8502 東京都世田谷区桜ヶ丘1-1-1

東京農業大学地域環境科学部造園科学科

小林 章

電話：03-5477-2440 FAX. 03-5477-2625

電子メール：shosan@nodai.ac.jp

長岡造形大学 専任教員公募

1. 募集職種・人員 教授又は助教授1名
2. 専門分野 ランドスケープデザイン
3. 担当予定科目 緑地環境計画, 緑地環境設計, 環境デザイン演習Ⅱ, 環境デザイン概論, 空間デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 景観計画, 景観設計, 地域プロジェクト演習, 実務実習Ⅱ, 空間計画学特論A・B, 空間計画学特別演習, 及び卒業研究, 大学院修士研究の指導等
4. 応募資格 次の各要件を備えていること
 - ①博士の学位またはこれと同等以上の業績を有する者
 - ②専門分野に係る実務あるいは教職歴を5年以上有する者
 - ③教育に対する見識と情熱を有する者
 - ④年齢は採用時において35歳から50歳までの者
5. 条件 採用後は原則として長岡市に居住すること
6. 給与 本法人職員給与規程による
7. 就業基準
 - ①出校は原則週4日以上とする
 - ②授業以外に各種学内委員会等の大学運営業務にも携わること
8. 採用予定日 平成18年4月1日(土)
9. 提出書類
 - ①履歴書(指定様式, 写真添付)
 - ②専門分野に係る研究, 教育, 業務, 社会活動に係る業績一覧(指定様式)
 - ③上記業績書の中から主要業績資料5点(作品は写真, 掲載誌の別刷り, カタログ等を, 著書は現物, 学術論文やその他の発表論文は別刷り又はコピーを添付)
 - ④大学における教育研究活動, 運営活動に対する抱負(1200字程度のレポートにまとめること)
 - ⑤健康診断書(必要に応じ別途提出を求めます)
10. 選考 書類による審査のうえ, 面接を行う。(後日採用予定科目について模擬授業を求められることがあります)
11. 応募締切日 平成17年8月26日(金)必着
12. 応募書類提出先 〒940-2088 新潟県長岡市宮関町197番地 長岡造形大学総務課宛
封筒の表に「ランドスケープデザイン教員応募書類」と朱書きし簡易書留で郵送してください。
13. 問い合わせ先 長岡造形大学ホームページ(<http://www.nagaoka-id.ac.jp/>)を参照。
または, 下記までお問い合わせください。
長岡造形大学 総務課 担当: 中村, 三重堀 Tel 0258-21-3310
Fax 0258-21-3312 E-mail admin@nagaoka-id.ac.jp
14. 応募書類の様式 履歴書及び業績書の所定様式を本学ホームページ(上記アドレス)からダウンロードできます。
15. その他 応募において提供して頂いた個人情報は, 本学「個人情報の保護に関する指針」に従って適正に管理し, 人事選考以外の目的には使用致しません。なお, 特に希望がない場合は応募書類の返却はいたしません。

近畿大学理工学部社会環境工学科 教員公募

1. 募集人員：助教授または講師 1名
2. 所 属：近畿大学理工学部社会環境工学科
3. 専門分野：建設環境学（以下のいずれかの分野：建設材料，エコ材料，リサイクル，環境創造・保全技術，生物・生態環境，海洋環境，土壌環境など）
4. 担当科目：建設材料学・環境材料学・建設工学実験あるいは生物環境・地圏環境・自然環境論・環境設備・環境設計演習・環境工学実験などの中から幾つかの科目が担当可能で，かつ，大学院（環境系工学専攻）における上記研究領域に関連する専門科目
5. 応募資格：(1) 着任時に45才までの方
(2) 博士（またはPh.D）の学位を特つ方
(3) 心身が健康であり，教育・研究に熱心な方
(4) 大学院担当教員として十分な研究業績を有する方
(5) 大学の管理・運営に対して十分な能力と熱意のある方
6. 着任時期：平成18年4月1日
7. 選考方法：第1次選考：書類選考審査（結果は10月初旬までに本人宛に通知します）
第2次選考：書類審査後，面接およびセミナーを実施します
（選考日は，本人宛に通知します）
8. 提出書類：(1) 履歴書（写真添付）【本学部所定の様式】
(2) 研究業績集計表（著書，学術論文，国際会議録，講演発表論文，特許 などの業績）
【本学部所定の様式】
(3) 研究業績書【本学部所定の様式または任意の書式】
(4) これまでの研究概要（A 4 2000字以内 任意の書式）
(5) 主要論文の別刷（5編 コピー可）
(6) 本学における今後の教育・研究に対する抱負（A 4 2000字以内 任意の書式）
(7) 推薦書（自薦も可），又は当方から応募者に関する問い合わせ可能な複数の方の連絡先
(8) 連絡先（電話番号，Eメールアドレス）
（【本学部所定の様式】は近畿大学ホームページからダウンロードできます。）
9. 応募締切：平成17年9月9日（金）必着
書類提出先・問合せ先：
〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学理工学部社会環境工学科 学科長 米田昌弘
Tel. 06-6721-2332 内線4276 Fax. 06-6730-1320 E-mail: yoneda@civileng.kindai.ac.jp
封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留で郵送願います。提出書類は返却しない場合がありますので予めご承知下さい。また改めて健康診断書，推薦書などの提出を御願います場合があります。

都市計画 (通巻254号) 平成17年4月

〒102-0082 東京都千代田区一番町10番地
一番町ウエストビル6階
(社)日本都市計画学会
TEL 03-3261-5407 FAX 03-3261-1874

特集: 社会実験としての巨大イベントと都市計画

巻頭言 都市パラダイムの激変 沢本守幸 3

特集論文

「社会実験としての巨大イベントと都市計画」

の編集にあたって 小野良平・川合康之 4

愛知万博計画の転変と主体の複合 吉見俊哉 5

都市計画事業促進効果・社会実験の発現の機会

としての巨大イベント 南條道昌 11

愛知万博における市民参加問題の政治学的考察

—手段か目的か 後 房雄 16

環境博覧会と地域創造の生態学 —愛知万博の

地元はいかに環境と取り組んだか 木村光伸 20

2005年日本国際博覧会と都市計画/周辺都市へ

の影響 瀬口哲夫 24

政策としての国際博覧会と地域づくり

小林甲一 27

スポーツイベントと観光振興—ワールドカップ

を中心に 梅川智也 31

2008年北京五輪と2010年上海万博の都市計画的

効果 葉 華 35

IBMエムシャーパーク: 地域再生の社会実験

澤田誠二 39

21世紀型の新しい世界的イベント—ヨーロッパ

モビリティウィーク・カーフリーデー

望月真一 43

ロンドン・ミレニアム・エクスペリエンス

グ

リニッチ半島の再生計画における役割

坂井 文 49

旬な人輝く人

愛知万博「愛・地球博」と交通計画 森川高行 54

プロジェクトノート

東部丘陵線(愛称:リニモ)の事業概要について

—日本初、常電導磁気浮上式リニアモーター

カー— 須山明廣 60

仙台駅東口のまちづくり 小島博仁 62

都市計画行政の最近の動き

「都市鉄道等利便増進法案」について 廣瀬隆正 64

「交通技術士」資格認定制度の設立 火口 敬 66

元気ががんばるまちづくりNPO

「まちに地みどり」—自然と共生できるまちづく

りを目指して NPO birth (パース) 佐藤留美 68

記憶の継承を基本コンセプトとして熊本の明日

を語り行動する非営利の市民団体

「熊本まちなみトラスト」 富士川一裕 70

書籍探訪・新刊レビュー 情報委員会 72

海外特派員だより

英国の都市再生プログラムにみる住民参加の水

準について 山口行一 74

ノンプロフィット団体と市民が支えるニューヨ

ークの芸術文化施設 青山公三 75

インドネシア、ナングロ・アチュ・ダラサラム

における津波災害 黒澤 馨 76

都市計画 (通巻255号) 平成17年6月

特集: 密度論再考

巻頭言 密度論によせて 林 泰義 3

特集論文

「密度論再考」の編集にあたって

野澤 康・室町泰徳 4

21世紀の密度論 戸沼幸市 5

都市計画における密度論の三十年 日端康雄 11

密度についての基礎的考察 腰塚武志 16

エネルギー消費と人口密度

松橋啓介・ジェフリー・ケンワーシー 20

良好な市街地環境の密度考察—VERTICAL

GARDEN CITYをめざして 森 稔 24

低層・コンパクトな都市像を探る 長島孝一 28

経済学から見た都市の密度コントロール

福島隆司 32

戦後の都市形成における東京の都市構造論と密

度計画について

森下尚司・米田 亨・海老江知子・小出望美 37

公共交通と都市計画 高密度な沿線の必要性の

観点から 中村文彦 44

数値的な密度から、質的な密度が求められる時

代に 北山孝雄 48

人類生態学からみた都市の密度 中澤 港 52

密度論研究の30年—「特集: 密度論再考」に関

連する研究論文リスト— 野澤 泰・室町泰徳 56

旬な人 輝く人

繁華街は時代を映し出す 初田 亨 62

プロジェクトノート

- 新たな伝統の創造を目指して（金沢駅東広場整備事業） 金沢市都市整備局都市計画課 68
 東京湾臨海部における大規模土地利用転換プロジェクト ～新たな都市居住の提案：東雲キャナルコート地区～ 寺澤正浩 70
 都市計画行政の最近の動き
 「街区再編まちづくり制度」について 町田修二・斧林義嗣 72
 元気ががんばるまちづくりNPO
 既掲載「元気ががんばるまちづくりNPO」リスト 編集委員会 76
 海外特派員だより
 アムステルダム中央駅および駅周辺の都市再開発プロジェクト 高田和幸 79
 これも都市計画研究？－米国都市計画学会に見た領域の広がり 河井容子 80
 垣間見た南京の道路交通事情 伊豆原浩二 81
- 農村計画学会誌** 2005.6 VOL.24 No.1
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13
 （目黒・炭やビル）
 （財）農林統計協会内
 農村計画学会
 TEL 03-3492-2988
- 計報
 名誉会員 故窪谷順次先生を悼む 川村 保 3
 総説
 基礎的自治体の内部団体 岩田俊二 3
 特集 市町村合併と農村計画
 特集報告
 市町村合併を実施した自治体における地域住民の利便性から見た公共施設の変化－東京都あきる野市をケーススタディとして 全 銀景・齋藤雪彦・荒 裕子 8
 英国におけるリージョンの台頭
 －地方自治改革と新しい都市・農村計画の方向性 村上佳代 15
 農村計画研究における『領域』の捉え方
 清水夏樹・唐崎卓也・栗原伸治
 齋尾直子・島 武男・清水 庸 24
 特集記事
 市町村合併が地域自治組織に与えた影響
 －島根県飯南町の事例から－ 笠松浩樹 36
 地方自治体と最適な圏域 青柳みどり 40
- 活動報告
 『若手ネット』活動報告 2001秋－2005春
 －市町村合併時代における農村計画ネットワークの構築－ 齋尾直子・吉村亜希子 44
 農村計画学会2004年度国際シンポジウム報告
 「中台韓日における都市と農村の共存計画手法」 糸長浩司・川口友子 51
 農村計画学会2005年度春期大会シンポジウム報告
 Urban-Rural Planning in Asian Mega-Cities:
 In Search of Flood Control Measures in Deltaic Cities 春山成子・藤橋亜矢子 57
 学位取得者論文紹介
 2004年度学位取得者論文紹介 62
 キーワード紹介 ⑥⑨
 「市町村合併」 森田 朗 64
- 日本緑化学会誌** 第30巻第4号 2005年5月
 〒156-0054 東京都世田谷区桜丘1-1-1
 東京農業大学林学科緑化学研究室内
 日本緑化学会
 TEL 03-5477-2275
- 特集「緑化工施工後一定期間経過後の事例とモニタリング手法」(Ⅲ)
 モリアオガエルの産卵場所の創出事例 梅迫泰年・長野 修 607
 河川改修工事後の植生変遷の事例
 田崎冬記・安藤由里子・渡邊幸一
 石田洋一・村椿俊幸 611
 特集「中国乾燥地における緑化技術とその将来」
 特集「中国乾燥地における緑化技術とその将来」
 企画の趣旨 吉川 賢 616
 黄土高原における沙漠化防止 高見邦雄 617
 市民による緑化活動 齋藤晴彦・北浦喜夫 624
 中国・豊寧県の砂漠緑化の取組み 丸井みのる 628
 論文
 コナラ果実に対する落葉被覆が実生の発生と成長に及ぼす影響 阿部信之・橋本良二 632
 小笠原父島における暖地型芝草類とその植物侵略性評価 吉岡俊哉 639
 積雪寒冷地にみる崩落土の播き出し材料としての利用可能性 坂本なつ子・内田泰三 649
 中国内蒙古自治区に生育する臭柏 (Sabina vulgaris Ant.) 稚樹の異形葉性と生育段階にもなう資源分配特性

| | | | |
|--|-----|---|----|
| 田中憲蔵・小田あゆみ・二宮生夫・王 林和 張 国盛・坂本圭児・吉川 賢 | 657 | 第16回森と花の祭典「みどりの感謝祭」盛大に 開催 | 33 |
| コラム | 662 | 平成17年度事業計画が決まる | 34 |
| グリーン・エージ 2005/4月号 No.376号 | | 樹木医訪問〈9〉杉浦芳喜氏を訪ねて | 40 |
| 〔〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 (勸)日本緑化センター TEL 03-3585-3561〕 | | 中山義治 | 40 |
| 緑一声・京都議定書の発効と森林・緑の課題 | | 日本さくらの会設立40周年記念大会が開催 | 42 |
| 前田直登 | 2 | 第15回「緑のデザイン賞」表彰 | 44 |
| 里山の再生・竹林をどう考える | 4 | 平成17年度樹木医研修生の募集 | 46 |
| 柴田昌三 | 4 | グリーン・エージ 2005/6月号 No.378号 | |
| 竹の歴史と文化 | 8 | 緑一声 地球環境・水環境をとりまく諸課題 | |
| 渡辺政俊 | 8 | 太田猛彦 | 2 |
| グリーンエッセイ・みやこの竹 富士谷あつ子 | 12 | 森林の水源かん養機能 | 4 |
| 富士谷あつ子 | 12 | 服部重昭 | 4 |
| 竹林拡大による景観的問題について | 14 | 樹木と水 | 8 |
| 大宮直記 | 14 | 石田 厚 | 8 |
| 竹林の病虫害と防除 | 19 | 庭園にみる水の役割の変遷 | 14 |
| 濱田 甫 | 19 | 飛田範夫 | 14 |
| 竹を用いた建築材料の研究と開発 | 24 | 水をきれいにする植物 | 18 |
| 渋沢龍也 | 24 | 中村圭吾 | 18 |
| 山口県における竹林の整備と管理 | 28 | 人の心に木を植える | 23 |
| 山口県農林部林政課 | 28 | 畠山重篤 | 23 |
| 森林文化の風景〈4〉 | | 屋上緑化における水管理技術 | 27 |
| 筒井迪夫 | 34 | 日下部友昭 | 27 |
| 法正林技術を守るもの | 34 | 筒井迪夫 | 32 |
| 筒井迪夫 | 34 | 森林文化の風景〈6〉 | |
| 緑化技術者のための土壌学入門〈10〉 | | 国営林経営理念の戦前と戦後 | 32 |
| 筒井迪夫 | 34 | 筒井迪夫 | 32 |
| 都市緑地の土壌の特性 | 36 | 緑化技術者のための土壌学入門〈11〉 | |
| 高橋輝昌 | 36 | 筒井迪夫 | 34 |
| 平成16年度「松保護士」認定、「宝くじ松」の 配布 | 40 | 土壌保全のための樹木と林床の管理 | 34 |
| 高橋輝昌 | 40 | 加藤正樹 | 34 |
| 切手が語る〈24〉世界の樹木①レインツリー | | 植木屋松村久左衛門とその時代〈その2〉 | 38 |
| 羽賀正雄 | 33 | 苅住 昇 | 38 |
| 羽賀正雄 | 33 | 茨城県で緑の祭典・第56回全国植樹祭 | 42 |
| 山菜文化産業協会が設立 | 44 | ゴルフの緑化促進協力会の緑化活動 | 44 |
| 筒井迪夫 | 44 | 松枯れ防除探訪記〈39〉松を守る支援活動 | |
| 筒井迪夫 | 44 | 石井健雄 | 46 |
| 平成17年度樹木医研修生の募集 | 47 | 奥州平泉「毛越寺」の松を守る | 46 |
| 筒井迪夫 | 47 | 石井健雄 | 46 |
| 樹木と緑化の総合技術講座ご案内 | 47 | 切手が語る〈25〉世界の樹木②世界の3代花木 | |
| 筒井迪夫 | 47 | 羽賀正雄 | 31 |
| グリーン・エージ 2005/5月号 No.377号 | | 日本の景観を良くする国民大会 | 49 |
| 緑一声・学校緑化への期待 | 2 | 公園緑地 May.2005 VOL.66 No.1 | |
| 輿水 肇 | 2 | 〔〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-16 平河中央ビル 6F (社)日本公園緑地協会 TEL 03-3265-8551(代)〕 | |
| 学校緑化の現状と課題 | 4 | テーマ 全国大会特集号－香川県－ | |
| 篠塚 脩 | 4 | あいさつ | |
| 近藤三雄 | 8 | 第47回 日本公園緑地全国大会高松大会を開催 するにあたって | 2 |
| 芝生の校庭緑化の現状と課題 | 8 | 田邊昇學 | 2 |
| 中瀬 勲 | 12 | 第47回 日本公園緑地全国大会に寄せて「みど り・うるおい・にぎわいの創造を目指して」 | |
| 学校緑化を活用した環境学習の現状と課題 | | 真鍋武紀 | 4 |
| 寺木秀一 | 18 | | |
| 環境教育の取り組み | 22 | | |
| 中村 圓 | 22 | | |
| 故伊藤助成前会長の御冥福を祈る | 27 | | |
| 森林文化の風景〈5〉 | | | |
| 筒井迪夫 | 28 | | |
| 森林経理学論争の問いかけ | 28 | | |
| 筒井迪夫 | 28 | | |
| 植木屋松村久左衛門とその時代〈その1〉 | | | |
| 苅住 昇 | 30 | | |

| | | | | | |
|-----------------------|-------------------------------|----|-----------------------------|-----------------|----|
| 第47回 日本公園緑地全国大会を迎えて | 増田昌三 | 6 | と一体となった琴平型公設民営化の取り組みー | 琴平町企画課 | 66 |
| 論説 | | | ⑮滝に会う、緑に触れる、自然と遊びの新体 | 豊中町総務課 | 68 |
| 1. 都市公園行政の展望 | 高梨雅明 | 8 | ⑯特色のある都市公園 | 香川県土木部都市計画課 | 70 |
| 2. これからの緑の保全と創出について | 西川嘉輝 | 15 | ⑰県民参加の緑化推進について | 香川県環境森林部みどり整備課 | 72 |
| 3. 香川県のまちづくりと公園緑地 | 小林 昭 | 20 | 観光情報・県下の話題 | | |
| 特別寄稿 | | | ①集い、交流し、働き、憩う都民拠点「サンポ | 香川県土木部都市計画課 | 74 |
| 香川の緑化に関わって考えること | 増田拓朗 | 24 | ート高松」 | 香川県観光交流局にぎわい創出課 | 76 |
| 香川県の公園緑地紹介 | | | ②田園美術館香川とアートツーリズムについて | 香川県観光交流局県産品振興室 | 80 |
| ①国営讃岐まんのう公園の概要について | 国土交通省四国地方整備局 国営讃岐まんのう公園事務所 | 26 | ③小豆島オリーブのブランド化についてーオリ | | |
| ②国営讃岐まんのう公園におけるボランティア | 国土交通省四国地方整備局 国営讃岐まんのう公園事務所 | 31 | ーブ栽培100周年（2008年）にむけてー | 香川県観光交流局県産品振興室 | 80 |
| との協働について | | | ④映画ロケ誘致による観光振興ー香川フィルム | | |
| ③香川県の都市公園整備について | 香川県土木部都市計画課 | 34 | コミッションの活動ー | （社）香川県観光協会 | 82 |
| ④高松市の公園緑地の紹介 | 高松市都市開発部公園緑地課 | 39 | ⑤世界一の松盆栽 かがわー盆上の大自然・調 | 香川県盆栽生産振興協議会 | 84 |
| ⑤丸亀市の都市公園について | 丸亀市都市整備部河川公園課 | 44 | | | |
| ⑥街なかのオアシス～香風園～ | 坂出市都市建設部都市計画課 | 48 | 国立公園 2005年4月号 No.632 | | |
| ⑦住民のための公園づくり | 善通寺市建設経済部都市計画課 | 50 | 〔〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1〕 | | |
| ⑧「歴史」と「自然」の中に「総合運動施設」 | 三豊総合運動公園事務所 | 52 | （財）国立公園協会 | | |
| を配した都市公園 | | | TEL 03-3502-0488 | | |
| ⑨自然の中でおもいっきり楽しめる公園ーみろ | さぬき市建設経済部商工観光課 | 54 | 巻頭エッセイ（第23回） | | |
| く自然公園ー | | | 量より質の自然が彩るまちの景観 | 溝口薫平 | 2 |
| ⑩人形劇の学校・劇場・博物館のある東かがわ | 東かがわ市とらまる公園事務所 | 56 | 特集・国立公園に期待することー | | |
| 市とらまる公園 | | | ・国立公園と人工林管理 | 速水 亨 | 4 |
| ⑪高見山公園の紹介 | 土庄町建設水道課 | 58 | ・国立公園ー過去、現在、そして未来への断想 | 久野 武 | 8 |
| ⑫スポーツとレジャーのできる公園紹介 | 国分寺町公園管理課 | 60 | ・これまでの全国総合開発計画を踏まえてみる | | |
| ー国分寺町“橘ノ丘総合運動公園・如意輪寺 | | | 今後の国立公園ビジョン | 田村省二 | 12 |
| 公園”ー | | | インタープリター：異文化を繋ぐ存在として | 鳥飼玖美子 | 16 |
| ⑬シーサイドうたづアクションプランにおける | 宇多津町建設課 | 62 | 国立公園の道路（3）ーああ美幌峠ー | 瀬田信哉 | 20 |
| 宇多津臨海公園のリニューアルについて | | | | | |
| ⑭にぎわいの公園づくりを目指してー利用者 | | | 海外の公園事情 | | |
| | | | ⑳台湾「タロコ国家公園」 | 親泊素子 | 22 |
| | | | 国定公園から | | |
| | | | 第21回・蔵王国定公園から | 田畑 浩 | 24 |
| | | | 連載インタビュー | | |

| | | | | |
|-----------------------------------|----------|------------------------------------|-----------|----|
| レンジャーOB 澤田栄介氏に聞く (3) (九重篇) | 26 | わいわい村 | 町原豊和 | 22 |
| 環境省ニュース | 28 | 連載インタビュー | | |
| 自然保護事務所だより | 青山銀三 30 | レンジャーOB 澤田栄介氏に聞く (5) (川湯・総理府篇) | | 24 |
| 国立公園 2005年5月号 No.633 | | 環境省ニュース | | 28 |
| 巻頭エッセイ (第24回) | | 自然保護事務所だより | 新井正久 | 30 |
| エイジングの美とウェザード | 進士五十八 2 | 造園修景 (No.92) 平成17年3月 | | |
| 特集・陸中海岸国立公園指定50周年 | | 〒102-0093 東京都千代田区麹町3-7 | | |
| ・大いなる天の恵みに感謝して | 熊坂義裕 4 | 半蔵門村山ビル | | |
| ・自然豊かな海に恵まれて | 岡野 治 8 | (財)日本造園修景協会 | | |
| ・気仙沼地域の陸中海岸国立公園区域への編入 がもたらしたもの | 佐藤恭治 10 | TEL 03-3262-5730 | | |
| ・陸中海岸国立公園指定50年を迎えて | 西宮 洋 11 | 巻頭言 景を育てる | 涌井史郎 (雅之) | |
| 連載インタビュー | | 特集 愛知万博の会場計画について | | 1 |
| レンジャーOB 澤田栄介氏に聞く (4) (上高地篇) | 12 | 日本庭園の景を育てる | | 7 |
| 海外の公園事情 | | 造園修景の旅 (東京都) | | 12 |
| ②ケニア「ナイロビ国立公園他」 | 吉中厚裕 16 | 協会の動き | | |
| 国定公園から | | 本部便り | | 18 |
| 第22回・剣山国定公園「山頂の植生復元について」 | 泉 清隆 20 | 支部便り (兵庫県・滋賀県) | | 19 |
| 第53回自然公園写真コンクール入選発表 | 22 | 造園修景 (93) 平成17年6月 | | |
| 環境省ニュース | 26 | 巻頭言 貸景と景園のススメ | 蓑茂寿太郎 | |
| 自然保護事務所だより | 上原裕雄 28 | 特集 景の構想と具体化に果たす造園設計者の 役割 | | 1 |
| 国立公園 2005年6月号 No.634 | | 造園修景の旅 (福岡県) | | 11 |
| 巻頭エッセイ (第25回) | | 協会の動き | | |
| 海の教えてくれる哲理 | 高橋 治 2 | 本部便り | | 14 |
| 特集・地域制の国立公園 | | 支部便り (東京都) | | 15 |
| ・地方分権と国立公園 | 鹿野久男 4 | 都市公園 第168号 平成17年3月 | | |
| ・地方行政と国立公園 | | 〒160-0022 東京都新宿区新宿6-13-10 | | |
| (財)国立公園協会研究センター | 8 | (財)東京都公園協会 | | |
| ・欧州の国立公園がめざすもの | 源氏田尚子 10 | TEL 03-3359-9281 | | |
| ミレニアム生態系評価の発表について | 薄木三生 15 | 特集 都市の観光 | | |
| 国立公園の道路 (4) -緑のトンネル道路- | | 都市の魅力、公園の魅力 | 岡本伸之 | 2 |
| 海外の公園事情 | 瀬田信哉 18 | 我が国の観光立国への取り組み | 志村 格 | 5 |
| ③韓国「智異山国立公園」 | 油井正昭 20 | 東京都の観光施策について-千客万来の世界都 市・東京をめざして | | |
| 国定公園から | | 酒井正幸・古原 稔・戸澤 互 | | |
| 第23回・金剛生駒紀泉「里山の自然学校 紀泉 | | 田中 彰・根本浩志 | | 9 |
| | | 上野恩賜公園と観光まちづくり | 細岡 晃 | 16 |
| | | 東京の観光～シティガイドの役割～ | 熊倉康雄 | 20 |
| | | 『時速4kmの都市観光と公園』 | 中根 裕 | 25 |
| | | 計画・調査 | | |

| | | | |
|--------------------------------|------|----------------------------|-------------------------------------|
| 雨水保水型薄層屋上緑化への取組について | | 涌井史郎 | 14 |
| 竹垣敏郎 | 28 | 現代の「庭」 | 大野秀敏 17 |
| 都立公園における外来種・在来種について | | 景観形成への造園施工技術者の活用 | 高橋一輔 21 |
| 五十嵐政郎 | 33 | 都市の景観づくりに役立つ緑化技術 | 伊藤孝巳 26 |
| 管理・運営 | | ガーデンシティ シンガポール | 中村久二 29 |
| 東京港野鳥公園シギ・チドリネットワークについて | 米沢 諭 | 37 | 清溪川復元プロジェクトー景観づくりを中心に |
| 向島百花園創設200周年記念事業の報告 | | 第23回海外研究調査報告 | 李 龍太 34 |
| 向島百花園創設200周年行事実行委員会 | 42 | 都市の自然再生の方法ー土地、施設のリユース | |
| 都立公園サポーター基金誕生の経緯 | 上田恭幸 | 45 | 服部明世 45 |
| 開園50年を迎えた都立小金井公園のあれこれ | | 投稿 | |
| 久保寺博久 | 52 | スウェーデンにおける屋上緑化の取り組みについて | |
| 東京グリーンアーカイブスまでの歩み | | ーアウグステンボルグ屋上植物園を例としてー | 永瀬彩子 50 |
| (財)東京都公園協会「緑と水」の | | 技術開発基金による調査研究助成 | |
| 市民カレッジ事務局 | 57 | コケ類植栽による断熱ならびに気温緩和について | 飯島健太郎 56 |
| 小石川後樂園におけるガイドボランティアの活動 | 木川政行 | 60 | 新・都市探訪 川越市 みんなではぐくむ 水と緑と歴史のまち・川越 |
| 北区立公園の管理と運営(市区町村の公園管理連載第14回) | 田中義隆 | 64 | 最前線技術レポート |
| コラム：ツーリズム・巨大なマス運動との折り合い | | 70 | 地域性苗木の生産施工システム |
| 〈まちの木〉花と香りが楽しめるーユーカリー | | 71 | 日本道路公団試験研究所緑化技術センター |
| 世界の庭園と、公園とー第12回 北欧の青い空と白い雲ー | | 72 | まちの話題ウォッチング 市立の幼稚園全てで芝生化ー小中学校も随時実施ー |
| リレーコラム：STUDY TO BE QUIET | | 74 | 明石市教育委員会 |
| 都市緑化技術 (No.55) 2004.AUTUMN | | | 地球時代の視点から (株)創研、古賀緑地建設(株) |
| 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目21番8号 | | | みどり人間 日下部友昭 68 |
| (財)都市緑化技術開発機構 | | | 研究ノート 屋上庭園の継続的なモニタリング |
| TEL 03-3593-9351 | | | についてー竣工後5年目を迎えた国土交通省屋上庭園ー |
| 都市緑化植物図譜⑤木になるシダ その3 | | | 今井一隆 69 |
| ーにせの幹ー | 3 | | TOPICS 70 |
| 都市緑化技術グラフィティ 洛中洛外図屏風にみる中世の都市景観 | 4 | 都市緑化技術 (No.56) 2005.WINTER | |
| 花を飾ろう 緑のスクリーン | 4 | 都市緑化植物図譜⑤ “ジュラシックツリー” | |
| 巻頭言 | | ーウォレミアー | 3 |
| 景観緑三法で緑による都市の記憶の蘇生を | | 都市緑化技術グラフィティ 都市の緑を把握する | 4 |
| 田代順孝 | 5 | 花を飾ろう 小さなスペースを生かす | 4 |
| 特集 景観緑三法と緑化技術 | | 巻頭言 地球温暖化と陸域植生 | 天野正博 5 |
| 景観緑三法の制定で生まれる新制度 | 高梨雅明 | 6 | 特集 地球温暖化防止と都市の緑 |
| 『創景』ー“継承される風景”創造への視座ー | | 6 | 地球温暖化問題と炭素吸収源について |
| 川村雅人 | 9 | | 松尾直樹 6 |
| 景観・地域遺伝子の継承に資する緑化の役割 | | 温暖化ガスにかかわる永久凍土攪乱の抑制技術 | |

| | | | | |
|-------------------------|------------|----|------------------------|---------|
| | 福田正己・高橋邦秀 | 9 | 特集 | |
| 地球温暖化防止と都市緑化等の推進 | 加藤順子 | 15 | 「みどりの効用」 | 5 |
| 地球温暖化防止に資する都市緑地の評価 | | | 人間の進化と道路緑化 | 鈴木忠義 6 |
| | 半田真理子・手代木純 | 27 | 常磐自動車道の環境施設帯樹林の現状と植栽の | |
| 都市公園における樹木の二酸化炭素固定効果の | | | 評価 | 山野佳秀 8 |
| 推定に係わる課題 | 柳井重人・市村恒士 | 32 | 市民が利用する環境施設帯ハイウェイパークの | |
| 地球温暖化対策としての道路緑化 | 小澤徹三 | 36 | 認識と評価について | |
| 森林および開発地におけるCO2吸収量の推定手 | | | 近藤三雄・高橋新平・水庭千鶴子・三谷元彦 | 10 |
| 法 | 松本光朗 | 40 | 心に映る道の風景 | |
| 国土のモニタリングと数値地理情報の利用可能 | | | ものを語る道に | 藤原梯子 14 |
| 性 | 中島秀敏 | 44 | 緑化紹介 | |
| 京都議定書に対するリモートセンシング技術の | | | 【日本編】愛・地球博会場のランドスケープと緑 | |
| 貢献 | 恒川篤史 | 48 | 化について | 戸田芳樹 16 |
| 海外情報 | | | 【日本編】愛・地球博関連の緑化事業について | |
| アジア欧州会合（ASEM）都市林シンポジウム | | | （その1） | 吉川勇次 20 |
| 会議報告 | 西川嘉輝・手代木純 | 53 | 【日本編】第二東名高速道路刈谷PAおよび東海 | |
| 技術開発基金による調査研究助成 | | | 環状自動車道の緑化概要 | 水島秀二 24 |
| 傾斜地立地型市街地における緑化空間のプラン | | | 【海外編】セネガル共和国沿岸地域植林計画 | |
| ニングクライテリアに関する基礎的研究 | | | －砂漠化防止へ向けた人々の取り組み | |
| | 阿部伸太 | 57 | | 中川清志 28 |
| 新・都市探訪 青森市 市民・企業、行政の協 | | | 海外レポート | |
| 働で緑化事業推進 | | 60 | アメリカの国立公園におけるパークロード景観 | |
| 最前線技術レポート | | | 設計 | 松本正人 32 |
| 樹木「入皮」による汚染史説明とタイムカプセ | | | ニュープランツ | |
| ルの森創成 | 佐竹研一 | 62 | アジサイ／コデマリ | 川上幸男 36 |
| まちの話題ウォッチング 工場緑地の新たな活 | | | 話題情報 | |
| 用－希少種を用いて種多様性の高い緑地へ | | | 道路環境行政のトピックス | 小池昭広 38 |
| 大阪ガス 姫路製造所 | | 64 | 平成17年度環境省自然環境局予算の概要 | |
| 地球時代の視点から 阪神園芸(株)、サンキコン | | | 環境省自然環境局総務課 | 39 |
| サルタンツ(株) | | 66 | ETCの普及促進策 | |
| みどり人間 門脇 勇 | | 68 | 国土交通省道路局有料道路課 | 41 |
| 研究ノート 屋上緑化の実用化に向けた試験研 | | | 寄稿 | |
| 究の取り組み | 佐藤忠継 | 69 | 潜在的な生息適地によるクマタカの生息地評価 | |
| TOPICS | | 70 | －中国横断自動車道における新しい調査・評価 | |
| | | | 手法の取り組み | |

道路と自然 平成17年春号 第127号第32巻第3号

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-7-2
大東ビル
(社)道路緑化保全協会
TEL 03-3504-0311

論説

技術と市民社会と民営化－「愛・地球博」にみる環境問題に対する多参画型の仕組み

涌井史郎 2

井原 庸・松村俊幸・橋本 隆 49

平成17年度

公益信託 大成建設自然・歴史環境基金 募集案内

[応募要項]

公益信託 大成建設自然・歴史環境基金は、環境省・文部科学省を主務官庁とし、国内外の自然環境、歴史的建造物等の保護及び活用に関する事業に対して助成することにより、これらを次代に継承し、もって人類の健康で文化的な生活の確保に資することを目的といたします。

1. 助成の対象となる事業
 - ①国内の自然環境の保全及び活用に関する事業
 - ②国内の歴史的建造物等の保存及び活用に関する事業
 - ③開発途上国の自然環境、歴史的建造物等の保護及び活用に関する事業
2. 助成の対象となる団体
 - ①自然環境の保存及び活用に関する活動を行う公益法人（社団法人、財団法人に限る）、特定非営利活動法人又は当該活動に関して国若しくは地方公共団体の出資、助成若しくは委託を受けている団体
 - ②各地の自然保護ボランティア協議会（構成員に地方公共団体若しくは自然公園財団の支部が含まれている必要があります。）
 - ③歴史的建造物等の保存及び活用に関する活動を行う公益法人（社団法人、財団法人に限る）、特定非営利活動法人又は当該活動に関して国若しくは地方公共団体の出資、助成若しくは委託を受けている団体
 - ④各地の歴史的建造物等の保護団体又は研究グループ
3. 助成金の金額と期間
 - ①平成17年度助成金 総額1,500万円程度、助成件数15～20件程度
 - ②助成期間は、原則として助成金贈呈日より1年間とします。
 - ③助成金の使用は受領日から1年間にて事業年度に縛られません。
4. 助成の対象となる経費
活動・研究に関係した費用であれば、機材費、消耗品費、旅費、謝金等を含みます。
5. 選考方法
学識経験者からなる運営委員会により、厳正に審査・選考いたします。
6. 応募締切日
平成17年7月29日（金）必着
7. その他
より多くの団体への助成金交付を考えておりますので、原則として2年度連続の助成はいたしません。但し、申請内容等を勸案し助成することが適当であると特に判断される場合は、例外として助成させていただきます。

応募についての詳細は、下記にお問い合わせください。

〒103-8670 東京都中央区八重洲1-2-1
みずほ信託銀行株式会社 プライベートバンキング企画部
公益信託 大成建設自然・歴史環境基金 宛
電話 03-3274-9210 FAX 03-3274-9504

- 提出していただいた申請書等は、返却いたしません。
- 選考結果は、申込者全員に書面で通知いたします。